

# 図工・美術科教育 実技・理論研修会 終了報告

|                |   |   |
|----------------|---|---|
| テーマ            | 想像の喜びが生まれるとき  |   |
| 日時             | 平成29年 7月14日(金) 13:00~16:00  |   |
| 会場             | 当別町立当別小学校   |   |
| 講師             | 渡辺 貞之 氏 (深川市アートホール東洲館 館長)   |   |
| 参加者            | 約25名  |   |
| 研修会<br>の<br>様子 |    | <p>当別小学校 6 年生 2 学級の児童を対象に、体育館で授業を行いました。この日は 30 度を超える猛暑日。講師の渡辺先生も子どもたちも汗だくで授業に取り組みました。はじめに「ワンちゃん先生」と呼ばれていた、渡辺先生の自己紹介からスタートです。なぜ「ワンちゃん」なのか・・・？についてのお話が始まると、子どもたちは興味津々で引き込まれていきました。</p>                              |
|                |   | <p>画用紙を 2 枚配布された後、今「自分の履いている上靴を描く」という説明がありました。その際にホワイトボードに「みない」という言葉を書く渡辺先生。子どもたちは、上靴を「見ないで」描きます。見ないで描く難しさに試行錯誤しながらも真剣に描く子どもたち。出来上がった上靴の絵に向けて「言葉をかける」体験をします。そして自分の気持ちを文字で書き表しました。</p>                             |
|                |  | <p>2 枚目の画用紙も同様です。しばらく描いた後に「みる」時間がくると、今まで見られなかった分、真剣なまなざしで観察していました。その後「見る」「見ない」をくり返しながらか、上靴を描き進めます。最後に「上靴に好きなものを描き加えて別なものにしよう」と、説明されました。想像力を働かせ、思い思いのパーツを描き加えていきます。車・飛行機・建物・・・、一人ひとり自分にしか描けない、不思議な絵が完成しました。</p>    |
|                |  | <p>講演会は「想像の喜びが生まれるとき」というテーマでお話をいただきました。渡辺先生の学生時代、教師を志した経緯、新任教師時代に会った子どもとの忘れられない出来事など、数々のエピソードから先生の造形教育への熱い想いに触れることができました。</p>   |
|                |  | <p>授業について、「記憶・想像力だけで描く」ことで、「課題を持って見る」ことや「何も知らないことを知る」ことを体感してもらうこと。そして「上靴」を“モノ”としてだけでなく、“愛着の目”で見ることの大切さ。また、感性を知性(言葉)に変えたとき、その人のものになり“消えない”体験となること。体験に基づく真理の大切さや、創造する“行為”が原点であることなど、図工美術教育で培う力について、貴重なお話を頂きました。</p> |